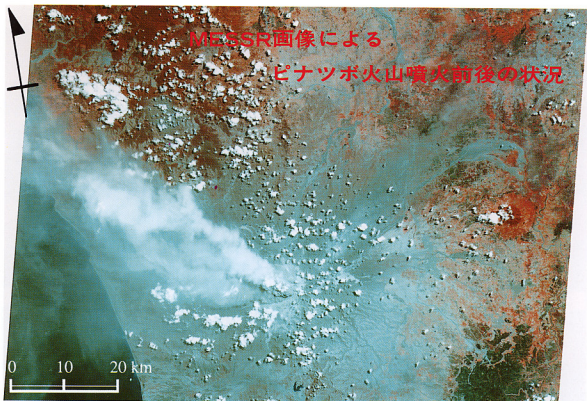


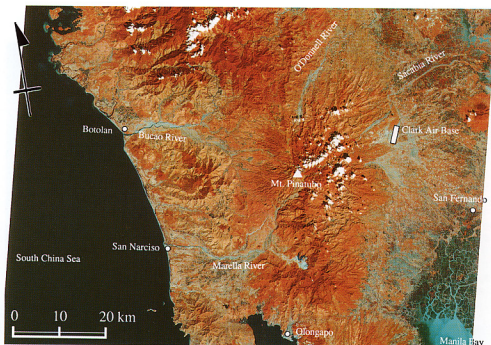
## MESSR画像による

## ピナツボ火山噴火前後の状況



1. 東経120.35°、北緯15.14°に位置するフィリピン/ルソン島ピナツボ火山の噴火後、海洋観測衛星MOS-1bに搭載されている光学センサMESSRで1991年7月5日に観測された画像で、ほぼ北西に大規模な噴煙が上がっている様子が見られる。画像の大きさは上下約75kmで、横幅は約100kmである。噴火した時期は雨季であり、噴火により堆積した火砕流堆積物や火山灰などが台風による降雨のために土石流(青っぽい色)となって山麓の地域を襲った跡が把握できる。噴煙と点在する雲のために判別が困難であるが、火砕流の痕跡らしい所(白色)が山麓の数ヶ所で観察される。

2. 噴火以前の1989年11月25日(乾季)に観測されたMESSR画像である。これは噴火後の画像(上)と比べ、少し位置が西へずれている。赤く発色しているのは植生のためである。



(注)MESSR画像データは宇宙開発事業団鳩山地球観測センターで受信・処理したものである。

(地殻物理部 佐藤 功)